

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様の方で保管してください。
■この施工説明書はKM328A仕様のイラストで説明しています。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重症に結び付く可能性があります。
 - ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です

この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

警告	<p>湯水を逆に配管しないでください。給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。</p> <p>禁止</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。</p>	<p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
	<p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>寒冷地仕様の場合 水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。</p> <p>禁止</p> <p>水抜き栓をいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が吹き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解水のため解水機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。</p> <p>禁止</p> <p>通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
	<p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p>禁止</p> <p>器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。</p> <p>強制</p> <p>点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。</p> <p>強制</p> <p>やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。</p>

注意

めっき部品は、ぶついたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。

禁止

めっきの表面が割れて、けがをすおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

取り付け前に

- ① 使用水圧〔A=(給湯機の最低作動水圧)+(配管圧力損失)〕
 - (1) 瞬間給湯機との組み合わせ (設定条件 水温:25℃ 給湯機温度調節:高温 吐水温度:42℃ ハンドル全開) **【比例制御式】** 最低必要水圧: A+0.10MPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯機との組み合わせ **【給湯・給水圧力】** 最低必要水圧: A+80.0KPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯機が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯機の給湯温度は、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ⑦ 給湯機からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯機を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーを設置してください。
- ⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図

取り付け完成図と各部の名称 寸法図

各部名称: 銅パイプ、逆止弁付仕様; レバーハンドル; シャワーヘッド; 本体; 吐水切替ボタン

仕様	A寸法	B寸法
銅パイプ・逆止弁付仕様	339	318
銅パイプ・逆止弁無仕様	322	
ブレードホース・逆止弁付仕様	415	384
ブレードホース・逆止弁無仕様	402	
スパイラル銅管・逆止弁付仕様	396	365
スパイラル銅管・逆止弁無仕様	384	
KM328AMYH	436	399
KM328ZAMYH	421	
KM328AMCL	370	349
KM328ZAMCL	353	

	H1寸法	H2寸法
KM328仕様	196	238
KM328AB仕様	212	257

分解図 部品の形状は仕様によって異なる場合があります。

1	キャップ
2	ビス
3	レバーハンドル
4	固定ナット
5	カートリッジ
6	ビス
7	吐水口
8	スリップ板
9	本体
10	銅パイプ
11	シートパッキン(白)
12	銅パイプ固定プッシュ
13	輪パッキン(黒)
14	スリップ板
15	フランジ
16	ホースガイドA
17	キャップ
18	カプラユニット
19	パッキン
20	シャワーホース
21	水抜きユニット
22	ナット
23	くい込みスリーブ
24	スリーブ
25	パッキン
26	ナット
27	逆止弁ジョイント
28	逆止弁
29	パッキン
30	ジョイント
31	ブレードホース
32	パッキン
33	逆止弁ジョイント
34	ジョイント
35	ストレーナ
36	シャワーヘッド
37	ストレーナ
38	シャワーフェイス
39	ビス
40	ホースガイドB
41	省施工ナット
42	六角ナット
43	菊座
44	プラグ
45	エコノッチユニット
46	スパイラル銅管

仕様別分解図: KM328AB仕様, エコノッチ仕様, 六角ナット仕様, フランジ仕様, 省施工ナット仕様, ホースガイド付仕様, 寒冷地仕様, スパイラル銅管仕様, ブレードホース仕様, 銅パイプ仕様, 逆止弁無し仕様, 逆止弁無し仕様, 逆止弁無し仕様

取り付け手順 1

- ① 給水管内の清掃
配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。
- ② 止水栓(別売)の取り付け
給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。水受けタンク又はトレーを設置する場合は、水受けタンク又はトレーの寸法をご確認の上取り付けください。止水栓はストレーナ付が最適です。寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付止水栓, 水抜き栓付止水栓, 止水栓(別売)

- ③ 本体の仮固定 (ブレードホース仕様の場合は固定)
取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、正面シールが正面にくるように本体を固定します。銅パイプ仕様の場合は仮固定し、ブレードホース・スパイラル銅管仕様の場合は完全に固定します。その際、本体に貼り付けてあるシートパッキン下面のセパレート紙をはがして固定してください。又、銅パイプ固定プッシュがしっかりはまっていることを確認してください。外れている場合は、しっかりとめ込んでください。

【注意】
セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、ガタツキが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
シャワーヘッド、レバーハンドルを持って締め付けますと破損のおそれがありますので、これらは持たないでください。

正面シール, 取り付け穴φ36~38, 輪パッキン(黒), スリップ板(又は菊座), フランジ(又は省施工ナット)(又は六角ナット)

【注意】
省施工ナットはねじ部に差し込むだけでは完全に取り付けできません。フランジ(又は省施工ナット又は六角ナット)の締め付けは、専用工具G11(別売)で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、ガタツキが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

専用工具 G11 (別売)

ブレードホース仕様の場合: フランジ(又は省施工ナット)を通す時は、ブレードホースの先端部のひとつを先にすらしらして通します。

省施工ナットの締め方: ねじ部がスライドして上へ上がります。

② 締め付ける
① 上へ押し上げる
天板にあたるまで押し上げる

六角ナットの取り付け方: 六角ナットをプラグより下の位置でブレードホース(又はスパイラル銅管)とシャワーホースに横からはめ込み、上へ上げて締め付けます。

シャワーホース(又はスパイラル銅管)横からはめ込み、上へ上げて締め付け

取り付け手順2

止水栓との接続（銅パイプ仕様の場合）

4 銅パイプの配管・止水栓との接続（逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。）

① 止水栓と接続した場合、図1のように垂直部分が長くなるように取り付けます。

【△注意】
 ・図2のような無理な配管はしないでください。配管の抜けや亀裂や破損の原因となります。
 ・銅パイプの抜け防止の為、給湯・給湯配管は動かないように固定してください。

【お願い】
 銅パイプを曲げる際、銅パイプ固定ブッシュがはずれないように注意してください。

② 逆止弁ジョイントを止水栓に仮固定した後、銅パイプの必要な長さを測り、切断してください。このとき、パイプの差し込み代25mm確保してください。

【お願い】
 銅パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。

③ 逆止弁ジョイントから図の部品をはずします。ナット、くい込みスリーブ、スリーブ、パッキンの順に銅パイプにはめ込みます。

【△注意】
 ・部品をはずして銅パイプにはめ込んでください。部品をはずさない状態で銅パイプを逆止弁ジョイントにはめ込むと、パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
 ・部品は正しくはめ込んでください。特にパッキンがねじれた状態ですと、漏水の原因となります。

④ 逆止弁ジョイントを銅パイプにはめ込んでから、止水栓と接続します。

【△注意】
 ・接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。（締め付けトルクの目安=約2000N・cm）
 ・薄肉の接続管（ニップル等）にはジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
 ・止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。

⑤ ③で仮固定していた本体を、工具で確実に締め付けます。

⑥ 逆止弁ジョイントが共回りしないように、別スパナで二面幅を固定しながらナットを締め付け、銅パイプと逆止弁ジョイントを接続します。

【△注意】
 接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。（締め付けトルクの目安=約2000N・cm）

止水栓との接続（ブレードホース・スパイラル銅管仕様の場合）

4 止水栓との接続（逆止弁付仕様、逆止弁無し仕様共、接続方法は同じです。）

① ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】
 ・接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。（締め付けトルクの目安=約2000N・cm）
 ・薄肉の接続管（ニップル等）にはジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
 ・止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないとブレードホース（又はスパイラル銅管）が抜け、漏水の原因となります。

② ブレードホース（又はスパイラル銅管）をジョイントにはめ込みます。ブレードホース（又はスパイラル銅管）のつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

【△注意】
 ・ブレードホースはR60以上、スパイラル銅管はR30以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。（A図）急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
 ・上下戻り配管はやめてください。（B図）ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。
 ・ブレードホース同士の接触及び、壁などへのブレードホースの接触は避けてください。接触部から亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
 ・スパイラル銅管は、同じ箇所でも5回以上曲げないでください。曲げ部から亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
 ・ブレードホース（又はスパイラル銅管）は切断しないでください。

【お願い】
 ブレードホース（又はスパイラル銅管）を曲げる際、銅パイプ固定ブッシュがはずれないように注意してください。（C図）

③ クイックファスナーを、ブレードホース（又はスパイラル銅管）とジョイントのつばにはめ込みます。

【△注意】
 ブレードホース（又はスパイラル銅管）を上引っ張って、抜けを確認してください。しっかりはまっていないと漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。この時、保護キャップはブレードホース（又はスパイラル銅管）にはめてから、クイックファスナーまで下ろします。

5 シャワーホースの接続

① [ホースガイド付仕様の場合] 同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。
 【お願い】 ホースガイドは壁面に固定しないでください。

② [ホースガイド付仕様の場合]
 (1) ホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめ込みます。（ホースガイドBは、一般地仕様の場合はホースに付いています。寒冷地仕様の場合は同梱しています。）
 (2) [一般地仕様の場合] カプラーが下向きになるように、ホースガイドBを90度回転させます。
 [寒冷地仕様の場合] ホースガイドBを90度回転させ、シャワーホースをホースガイドBの上から通します。

【△注意】
 ・固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。B図のように、ブレードホース又は銅パイプ・スパイラル銅管に引っ掛けたり、ひねったりしないでください。シャワーが破損し漏水により財産などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
 ・[一般地仕様のみ] カプラーとホースの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。（増し締めトルクの目安=約100N・cm）

【お願い】 ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。ずれている場合は合わせてください。（C図）

同梱の水抜きユニットをパッキンをはさんでシャワーホースに接続します。その際、シャワーホースをプライヤー等で固定して締め付けてください。

【△注意】
 ・締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。（締め付けトルクの目安=約200N・cm）
 ・シャワーホースをねじらないでください。シャワーホースが破損するおそれがあります。
 ・シャワーホースのセレーション部以外には工具をかけないでください。シャワーホースが破損するおそれがあります。
 ・本体のプラグにカプラーを押し込む前に、カプラーと水抜きユニットの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。（増し締めトルクの目安=約100N・cm）

③ カプラー（寒冷地仕様は水抜きユニット）のキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてから、本体のプラグへカチッと音がするまで押し込みます。（スライダーがすでに下りている場合もあります。）取り付け後、カプラーを引っ張ってははずれないことを確認します。

【△注意】
 カプラー取り付け後、確実に接続されているか、以下の確認を行ってください。確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
 ・スライダーが5mm程度上がっていること
 ・カプラーを真下に引っ張ってははずれないこと

【△注意】
 シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水パイプの間にぶら下げて取り付けてください。シャワーホースが引き出しにくくなります。

【△注意】
 シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。ホースとの接続の銅管部を曲げることで左右に振ることができます。

取り付け後の点検と清掃

通水確認

【△注意】 水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーフェイス・ストレーナ清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナにゴミ等が付きまると、吐水量が減ったり、きれいな流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。

上いっぱい上げて適量
正面の位置で適温

湯側止水弁
あける
しめる

水側止水弁
あける
しめる

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度確かめください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	8ページ「湯温・流量調節」
	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等が付きまっていますか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	取扱説明書6ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」
	ガス給湯機と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯機の能力を適正能力にセットする	—
	シャワーフェイス・ストレーナは凍っていませんか	シャワーフェイス・ストレーナにぬるま湯をかける	—
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	8ページ「湯温・流量調節」
	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	8ページ「湯温・流量調節」
低温しか出ない	給湯機から十分な湯がきていますか	給湯機の設定温度・作動を確認する	—
	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	8ページ「湯温・流量調節」
温度調節がうまくできない	給湯機から十分な湯がきていますか	給湯機の設定温度・作動を確認する	—
	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等が付きまっていますか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	取扱説明書6ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」
吐水が飛び散る	シャワーフェイス・ストレーナにゴミ等が付きまっていますか	シャワーフェイス・ストレーナを清掃する	取扱説明書6ページ「シャワーフェイス・ストレーナの清掃方法」

【カートリッジのメンテナンスをする場合】
 【△注意】 修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。カートリッジのメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。